
なまめかしき緑

櫻木

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

なまめかしき緑

【Nコード】

N3916Z

【作者名】

櫻木

【あらすじ】

自由奔放で異性問わず好かれるミドリ。ちょっと気が強く、クセのある性格が異性を刺激する。同性の陰口にだってどこか風吹く様子。好きなものは好き。嫌いなものは嫌い。——そんなミドリが色付ける日々を側で見守る（呆れ半分）親友のハナシ。

私は自分が薄情な人間だと思っている。
正直、こんな性格ひんまがった人間と友達になりたいとは思わ
ない。思えない。

——つくづく、私は面倒な人間だと思う。

「みどり!!」

昼食時、決まって誰かが私たちのもとに恐ろしい剣幕でやって来
る。

見慣れた光景であるが、慣れるべきものではない。

「これ誰だよ!？」

「……ああ」

「俺の誘い断つといて、なんで、他のオトコと会ってんだよ!？」

「いや、ムコウが先だったし」

早口でまくし立てる相手に見向きもせず、目の前の弁当をつつく
オンナ——早坂 緑。

色気より食い気で邪道まっしぐらな性格。そのクセ異性問わず好意をバンバン受けるのは、誰に対しても変わらないその自由奔放な言動がいつしか相手を魅了させるのだろう。

「はじめっから騙してたのかよ！」

「騙したつもりはないけど」

「じゃあどっちが本命なんだよ！？」

加えて、彼女の容姿は美しい。

クセのある性格だが、もちろん交際を申し込む輩はあまたいるわけだが。

「——どっちも本命」

私の友は、実に惚れやすいしょうがない人間だ。

「……またか」

「あははーごめんね」

ミドリはいつも困ったように笑う。

こうして顔を合わせて昼食をとっていると週に一、二回は先ほどのように男がやって来る。

ひどい剣幕の人かもしれない、情けなく眉を下げた人もいる。
いつれの面にしても彼らが求めているのはミドリの本心である。

ミドリは実に惚れやすいしょうがない人間だ。

「それで昨日は誰とどこに行ったのさ」

「聞いてくれる!？」

「あたりまえ」

「ありがとう!」

こうしてミドリの浮気を知りながら毎回違うオトコの話聞く私も、実にしょうがない人間だと思う。

ミドリは異性との付き合いをとて嬉しそうに、楽しそうに話す。
こんなに生き生きと語るのになぜ浮気をするのか。

……というか、そんなに何股もかけていつか首でも絞められるんじゃないかと。

私はそちらのほうが心配になる。

「ケンジもユウスケもヤスシも、みんな好きよ」

……そうか、アンタは今三股か。
いや、先ほどの言い合いで一人脱落したから二股になるのかな。

ぼんやりとそんなことを考えていると、ミドリの大きな瞳が私を見ているのに気がついた。

「志貴、だいすき！」

ミドリは自分が『尻軽女』『淫乱』『女狐』と陰口を言われているのを知っている。

知っていて何も言い返すことなく、そのまま言わせているのは自覚を持っているから。

——ミドリは実にしょうがない人間だ。

大きく口を開けて笑い、今日も辛辣な言葉を誰彼構わず言い放つ。

「はいはい」

彼女に恋して六年目。

この春、私たちは高校の最上級生となった。

己の欲のため、友達『ごっこ』を続ける私。

—— 実に、面倒な人間である。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3916z/>

なまめかしき緑

2011年12月13日11時48分発行